

歯科補綴学

一般社団法人
全国歯科衛生士教育協議会 監修

1 章

歯科補綴の概要

到達目標



- ①補綴歯科治療の目的を概説できる。
- ②歯の欠損に伴う生理的変化を説明できる。
- ③補綴装置の種類とその特徴を概説できる。
- ④補綴歯科治療における歯科衛生士の役割を概説できる。

1—補綴とは

「補綴^{ほてつ}」とは何かについて、フローチャート（図 I-1-1）にまとめ、さらに義歯による補綴歯科治療の具体例を示す（図 I-1-2）。

これらの図でわかるように、「補綴」とは、歯・歯列・顎骨・顔面の欠損を人工装置で補い、障害された機能（咀嚼，嚥下，構音）と，失われた顔貌の審美性（見た目）を改善・回復することである。これに用いる人工物を「補綴装置」といい，補綴装置を口の中あるいは顔面に装着する治療を「補綴歯科治療」という。「歯科補綴学」とは，このような治療を考究する学問のことである。

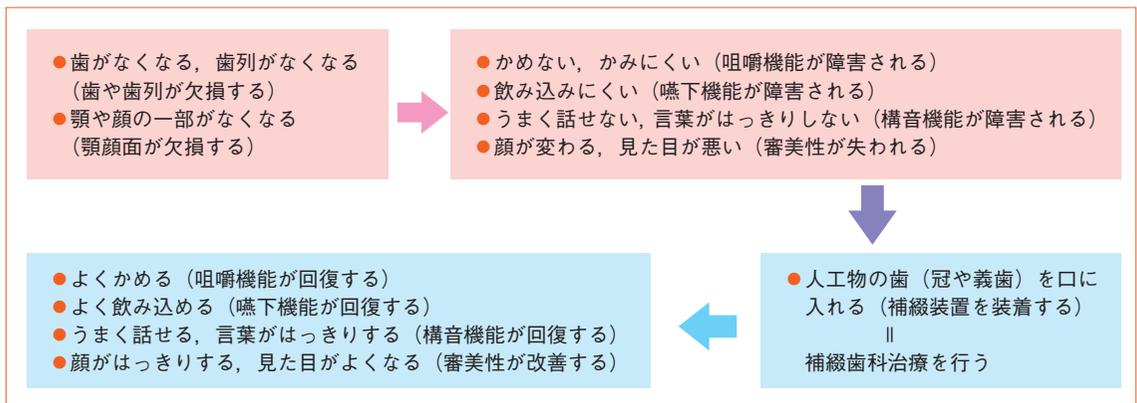
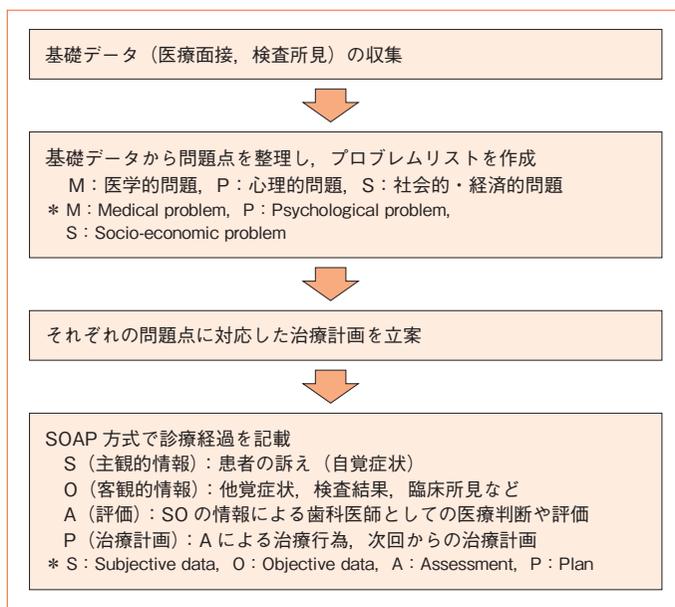


図 I-1-1 「補綴」の概念を示すフローチャート



図Ⅱ-1-1 POSに基づいたPOMR（記録）の作成

その他，頭頸部や顎顔面部などを視診，触診，聴診などで検査する。
顎顔面の対称性，咬合高径，下顎位，口唇閉鎖などを観察する。

2 口腔内の検査

残存歯，顎堤，歯周組織と口腔軟組織などを検査する。

(1) 準備する器材

デンタルミラー，ピンセット，歯周プローブ（図Ⅱ-1-2），コンタクトゲージ（図Ⅱ-1-3）。

(2) 検査内容

① 歯および顎堤の検査

- ・う蝕：う蝕による歯質欠損の有無や範囲，大きさを調べる。
- ・歯の状態：歯の捻転，傾斜，移動，形態，色調などを視診する。
- ・歯間離開度（隣接歯との接触状態）：コンタクトゲージ（50 μm ，110 μm ，150 μm ）を用いて，接触状態を調べる。
- ・欠損部顎堤の状態：顎堤の高さ，幅，上下の対向関係，顎堤粘膜の被圧変位量などを視診または触診で調べる。

② 歯周組織の検査

- ・歯肉粘膜の状態：歯肉縁の炎症，出血などを調べる。
- ・プラークの付着：歯垢染色剤を用いて，付着の部位や範囲を調べる。
- ・プロービングデプス：歯周プローブを用いて歯肉溝および歯周ポケットの深さ，プロービング時の出血の有無，根面や根分岐部の形態などを調べる。

3 章

有床義歯治療

到達目標



- ①全部床義歯治療の特徴を概説できる。
- ②全部床義歯治療の流れを説明できる。
- ③全部床義歯治療の流れに沿った器材を準備できる。
- ④全部床義歯治療の患者への説明と指導が実施できる。
- ⑤全部床義歯治療に関連する併発症とその対応が説明できる。
- ⑥部分床義歯治療の特徴を概説できる。
- ⑦部分床義歯治療の流れを説明できる。
- ⑧部分床義歯治療の流れに沿った器材を準備できる。
- ⑨部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。
- ⑩部分床義歯治療に関連する併発症とその対応を説明できる。

1 全部床義歯治療の概要

1. 全部床義歯とは

全部床義歯とは、上顎あるいは下顎のすべての歯を欠損した患者（無歯顎患者、図Ⅱ-3-1）に製作・装着される有床義歯のことである。総義歯ともよばれる。

義歯に加わる咬合力は顎堤の粘膜で負担する。歯を根面板*で覆い、義歯の下で咬合力を負担させることもある。上顎は下顎に比較して顎堤の面積が大きいので咬合力の負担能力が大きい。

維持とは、義歯が顎堤から離脱しない（はずれない）ことである。安定とは、機能時に義歯が動かないで安定することである。全部床義歯の維持は、残存歯がないため、顎堤粘膜との接着、粘着、吸着による。上顎全部床義歯に脱離する力が働く



*根面板

支台歯の根面を覆う金属板の総称です。支質の保護、二次う蝕の防止、咬合力による歯根破折の防止に有用です。



A：上顎無歯顎



B：下顎無歯顎

図Ⅱ-3-1 無歯顎患者の口腔内

7. 患者への説明と指導

1) 部分床義歯治療前の患者指導

(1) 歯科衛生士による対応

全部床義歯の患者と同様に、治療内容や治療計画について説明を行う。さらに、部分床義歯治療では支台歯（鉤歯）を含む残存歯をこれ以上失わないよう、継続した維持管理が必要となる。歯周疾患の進行抑制とう蝕予防のため、義歯、残存歯ともに徹底したプラークコントロールが重要であるので、十分に説明する。

また、部分床義歯は、製作したものの不快感などから使用されない場合もあるが、たとえ1歯であっても欠損状態が長く続くと、咬合のバランスが崩れ、残存歯や顔貌に影響が出てくる可能性があることも指導する。患者には、部分床義歯を装着後、慣れるまで個人差があり、調整が必要であることや、最初から構音や咀嚼がスムーズにはできないことを理解させる。

2) 部分床義歯治療中の患者指導

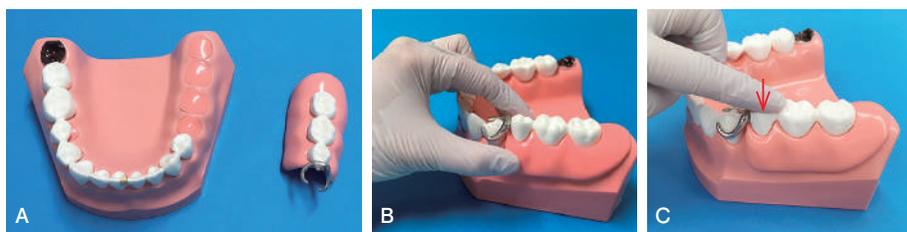
全部床義歯の患者指導とほぼ同様に行う。部分床義歯を新製する場合、今まで使用していた義歯は、紛失してしまった場合や災害時などに備え、破棄せず保管しておくことよいことを伝える。

3) 義歯装着時の患者指導

(1) 部分床義歯の着脱

以下に部分床義歯の着脱の手順と留意点を示す。

〈部分床義歯の装着方法（入れ方）〉



クラスプやレストなどの支台装置の形状と装着方向を確認する (A)。クラスプを支台歯に軽くあてがい (B)、クラスプ近くの人工歯を押さえ、装着する (C)。

定位置に収まっているか、浮いていないか、かみ合わせて確認する。変形や破損のおそれがあるので、かんで装着しないように指導する。

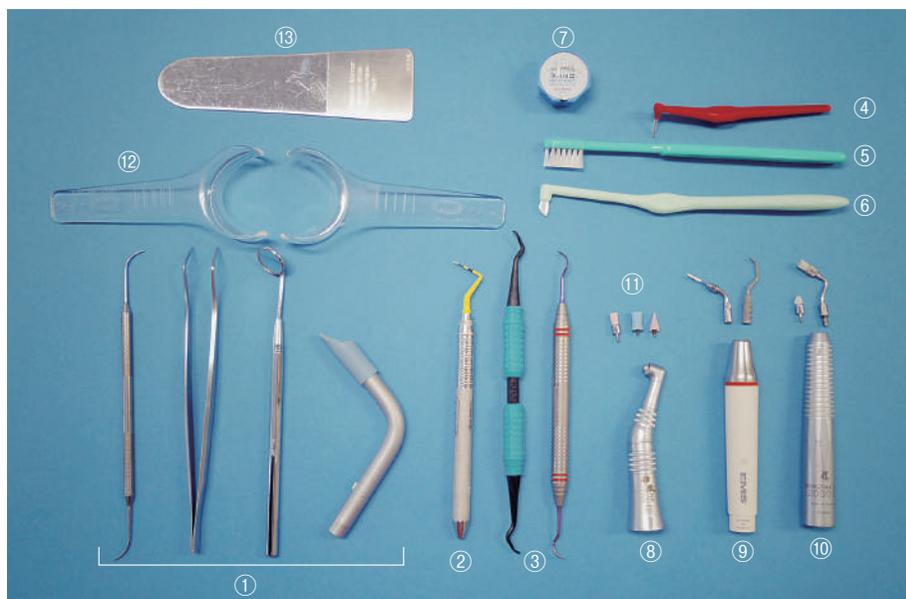


図 II-4-18 メンテナンスに用いる器材

①基本トレーセット, ②プラスチックプローブ, ③インプラント用スケーラー, ④歯間ブラシ, ⑤歯ブラシ, ⑥タフトブラシ, ⑦デンタルフロス, ⑧エアアブレーション, ⑨超音波スケーラー, インプラント用チップ, ⑩エアスケーラー, サブソニックブラシ, ⑪ブラシ, ラバーカップ, ラバーチップ, ⑫口角鉤, ⑬口腔内写真用ミラー。



図 II-4-19 インプラント用プラスチックプローブ



図 II-4-20 ワイヤコーティングされた歯間ブラシ



図 II-4-21 エアスケーラー (右上) とサブソニックブラシ



図 II-4-22 インプラント用スケーラー



図 II-4-23 インプラント用超音波スケーラーチップ

④プラーク除去用器材: 歯ブラシ, タフトブラシ, 歯間ブラシ (図 II-4-20), デンタルフロス, スーパーフロス, エアスケーラー, サブソニックブラシ (図 II-4-21), エアポリッシャー, パウダー (グリシン)